

令和元年 9 月 5 日

新たな宿泊税の導入に断固反対します

(社)定山溪観光協会会長 金川一男

- 1) 定山溪温泉の宿泊者は約半数が札幌市民でありこれにたいする課税は 市民の宿泊に対しての課税 となり 観光税とはいいがたいものである。
- 2) 現在入湯税が旅館にその徴収義務が課せられているが その歳入は一般会計に繰り入れられており 温泉地の整備活性化とは 関係のない部分にほとんどが支出されている。
- 3) 札幌市は確かに MICE などに力を入れているがその恩恵は市内のホテルに限られており 定山溪温泉はその恩恵を得られていない。
- 4) 消費増税 北海道による宿泊税 札幌市による宿泊税 それに従来の 入湯税を加えると 多重課税となり これは明らかに 宿泊消費を 抑制する効果しかないと言い切れる。
- 5) 観光税とはいいいながら実態は宿泊税であり しかもその目的用途が明確でない中での 増税は許されるものでないと思う。

令和元年9月05日
一般社団法人定山溪観光協会 会長 金川一男

新たな宿泊税の導入に反対します

北海道そして札幌市で議論が進められている宿泊税の導入に対し、定山溪観光協会は断固として反対します。

①札幌市民に対する増税である

定山溪温泉における全宿泊者の半数以上は、札幌市民を中心とした域内の住民です。宿泊税は本来、北海道外や海外から来札される宿泊者に対して徴収すべきであり、定山溪温泉の宿泊者から徴収することは、札幌市民の癒しの場、憩いの場へ足を遠のけるだけであり、札幌市民にとって単純な増税を意味します。

②入湯税の不明確な使途

定山溪温泉では既に宿泊者から入湯税の徴収が義務付けられており、その額は年間約2億1千万円にも及びます。目的税である入湯税は、明確に区分された財源として入湯税を納めた地域に還元されるべきですが、札幌市においては一般会計に繰り入れられており、直接的な観光予算としては約2,300万円しか定山溪に還元されていません。その還元率は他の温泉地と比べて大幅に少なく、また定山溪の観光とは関係のない内容にも支出されている状況です。この様に目的税である税金ですら不明確、不明瞭な利用しか出来ない行政が更なる増税を押し量る事は、単純な事業者の負担増加、宿泊者の需要減退を招くだけであります。

③恩恵の受けない定山溪

札幌市では MICE を中心としたビジネストラベル需要の拡大、またイベントやコンサート等に利用する大型集客施設への投資を推進しています。その投資は札幌中心部や施設周辺のホテルにとって大きな恩恵があるのですが、ビジネスやイベント需要とか

け離れた定山溪温泉にとって、その恩恵を受ける事はほとんど出来ません。一過性の集客ではなく持続的、継続的な観光活性化こそ重要と考える定山溪にとって、今札幌市で推進している投資は受け入れられるものではありません。

④消費増税と三重課税の問題

今年 10 月に施行される消費税増税により、全ての経済予測において消費の低迷が予想されています。そのような時期に更なる増税の議論を進める事は、経済原則からあってはならない事と考えます。増税することによって消費が活性化するという経済効果は、到底考えられません。さらに北海道も宿泊税の導入を検討しており、既に入湯税を宿泊者から徴収している定山溪温泉にとって、今回の宿泊税が全て導入されると三重課税となります。消費税増税でさえ民間事業者には相当な負担となる事が明白な状況で、このような議論がなされている事自体、全く理解できるものではありません。

⑤自助努力だけの現状

札幌市における観光予算は年間 22 億を超えており、札幌観光協会へも様々なイベントや受入整備事業として多くの予算付けがなされています。一方、定山溪温泉は札幌市から先に述べた還元額しかなく、その状態では地域活性化を到底図る事が出来ない為、一事業者に換算すると相当な負担金を拠出しています。その額は、札幌観光協会の民間事業負担金総額をはるかに超えています。日本文化と伝統、そして地域に根付いた独自の風土を発信し、国内外の観光客が体験する事が出来る、札幌市で唯一の温泉地を見捨て、なにか事業を実施したければ自助努力だけを求められる定山溪温泉。本来あるべき観光の姿を忘れ、他地域中心部の成功事例だけを頼りに、単純な真似事を行おうとする札幌市にとって定山溪は、その財源を努力せず自動的に徴収できる都合のいい地域、という目線でしか捉える事が出来ません。今回唐突に持ち上がった宿泊税の議論は、札幌市の観光活性化に少なからず寄与したであろう定山溪温泉を完全に切り捨てた議論であり、我々は札幌市行政から見捨てられたも同然であります。

以上

- 1) 観光産業は一般的にはとても景気が良いように思われているが、実態は国内観光需要の減少が大きく、見た目ほどは経営環境はよろしくない。
- 2) 7月以降の韓国からの観光客の急激な現象は経営は大きく揺さぶることとなっている。
- 3) このような環境下での増税論議は実情を踏まえたものとは言えない
- 4) 定山溪温泉では札幌市内ホテルとは宿泊客の構成が大きく異なり、市民が観光税を徴収されることはその目的からして理解できない。
- 5) 現状2億円以上の入湯税が収められているが直接定山溪に支出されるのは3000万程度であり、他は市内各施設整備などに使用されている。本来の地域整備にはそれほど支出されていない。
- 6) 消費税200円、北海道宿泊税200円、札幌市観光税200円、入湯税150円の多重課税となれば消費者にとって大きな負担となり、宿泊需要の減退をもたらすのは明らかである。
- 7) 観光税という目的税でありながらその目的が全く明らかでない。
- 8) 増税には明確な使途目的、理由が必要である。
- 9) 年間宿泊者数1000万人として20億円もの観光予算をどう使うのか全く不明である。